

別記様式第8号(第13条、第27条関係)

令和6年1月25日

鹿児島大学大学院人文社会科学部研究科長 殿

最終試験の概要及び結果報告書

地域政策科学専攻 氏名 石原 明子

1973年 3月 19日生

学位論文題目

水俣のもやい直しの研究—修復的正義の歴史社会学

(A Study of Minamata's Moyai-Naoshi: Historical Sociology of Its Restorative Justice Efforts)

最終試験の概要

学位(博士)論文に関する最終試験を令和6年1月12日に行った。最初に石原氏により、提出論文の概要について説明がなされ、その後試験委員との間で質疑応答がなされた。

試験委員からは、丁寧な学説史の整理に基づき論文の学術的位置づけが明確になされている点、オーラルヒストリーと文書資料を用いたもやい直しをめぐる歴史が生き生きと描かれている点等について評価できるとの意見が出されたうえで、主に本論文と紛争解決理論の関連、水俣のもやい直しが有する一般性と特殊性を中心に質疑応答が交わされた。石原氏の論文では、水俣のもやい直しへの内戦地における紛争解決理論の適用可能性が論じられているが、内戦地と水俣の相違点について言及する必要があるのではないか、との指摘に対して、石原氏は、これまでの紛争解決理論研究の蓄積を前提とした適用可能性に関心が傾斜しており、相違点を十分に視野に入れておらず今後の課題にしたいと答えた。この問題と関連して、水俣のもやい直しの持つ個性をより一層浮き彫りにするものとして、論文内で言及されている水俣地域における「海」「街」「山」という居住地域の問題を分析に活かす方法があるのではないかとの指摘がなされた。これに

対し石原氏は、指摘の通り十分に分析に反映できておらず、今後水俣という地域の独自性について、より踏み込んで考えていきたいと答えた。

さらに、水俣のもやい直しの事例が他の地域に応用された事例の有無、もやい直しという地域独自の歴史性を帯びた言葉と一般的な概念との関連、地域住民の多様な在り方についての分析枠組みとの関連等について質問がなされた。これらの質問について石原氏は、これまでの紛争解決学及び水俣での調査研究の経験を踏まえて回答した。

石原氏との質疑応答を終え、試験委員による協議を行った。石原氏の論文は、学術的な手順をしっかりと踏まえ、もやい直しをめぐる水俣地域についての優れた歴史叙述を行っている点が確認された。質疑でなされた紛争解決理論と水俣の事例の関連やもやい直しの特殊性と一般性等の論点は、いずれも本論文を一層精度の高いものへとブラッシュアップするうえで参照とされるべき論点であり、石原氏は、審査委員から出された質問や指摘の意味を正確に理解したうえで真摯に受け止めた。石原氏の論文は、従来の水俣病をめぐる水俣地域に関する研究に対して新たな視点からのアプローチを試みたものとして、また、紛争解決理論に対しても事例研究を通じた再検討への道を切り拓くものとして高く評価できる。

以上により、学位を与えるに十分な学力と見識を有するものと認定した。

授与する博士学位 学術

最終試験結果 合

試験委員

主査 (氏名) 栗井 一臣

副査 (氏名) 城戸 秀之

副査 (氏名) 竹岡 健一

副査 (氏名) 西村 明